

厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
(分担研究報告書)

科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究
各学会・団体での患者・市民向け情報の作成・提供への取り組み (Mindsからの検討)

研究分担者 奥村 晃子 公益財団法人 日本医療機能評価機構 EBM医療情報部 (部長)

研究要旨

質の高い診療ガイドラインの作成支援と普及に取り組む厚生労働省委託事業・EBM普及推進事業 (Minds) を運営する立場から、診療ガイドライン作成における患者市民参画の現況と課題、信頼できる情報源としての国民向けのガイドライン解説の作成・提供の現況と課題、対応策について検討を進めた。

A. 研究目的

患者の価値観・希望を取り入れた診療ガイドラインおよび診療ガイドラインをベースにしたがんに関する医療情報を国民 (患者・家族・市民等) 向けに迅速かつ持続的に提供する方法・体制を検討する。

れているか、対象集団として想定した人々の意向をどの程度反映するものであるかに焦点を当てる。

ガイドライン作成グループメンバーの専門分野や役割、患者・市民などガイドラインの対象集団の希望や価値観がどのように調べられ、それらの内容がどのように反映されたのかを評価する。

B. 研究方法

EBM普及推進事業 (Minds) を運営する立場から、診療ガイドライン作成における患者市民参画の現況と診療ガイドラインをベースとした国民向けのガイドライン解説の作成・掲載状況を調査し、現況と課題を明らかにするとともに対応策を提案する。

- 項目4: ガイドライン作成グループには関係する全ての専門家グループの代表者が加わっている
- 項目5: 対象集団 (患者、一般市民など) の価値観や希望が調べられている
- 項目6: ガイドラインの利用者が明確に定義されている

(倫理面への配慮)

本研究は、対象者の個人情報などを扱う内容ではなく、特に倫理面の配慮の必要はない。

	領域2 (0-100%)	項目5 (評点: 1-7)
がん領域 (n=189)	58.22	3.17
全領域 (n=870)	50.01	2.77

C. 研究結果

(1) 診療ガイドライン作成における患者市民参画の現況

2011年から2022年に発行された診療ガイドラインについて、6領域・23項目で構成される診療ガイドライン評価ツール (AGREE II) の中の患者市民参画に関連する領域2・項目5の評価結果を基に現況の把握と分析を行った。

(2) 国民向けガイドライン解説の作成・掲載状況

Mindsガイドラインライブラリ (<https://minds.icqhc.or.jp/>) に掲載される診療ガイドラインおよび国民向けガイドライン解説 (ともに最新版のみ) は以下の通りである。(2023年3月末時点)

診療ガイドラインが扱うテーマをがん領域と全領域 (がん領域およびがん以外のすべての領域) に分けて比較を行った。

評価対象とした診療ガイドライン件数は、がん領域が189件、全領域が870件である。

	国民向けガイドライン解説 (件数)	診療ガイドライン (件数)
がん領域	28	109
全領域	91	452

【領域2. 利害関係者の参加 (評価項目4-6)】

ガイドラインが適切な利害関係者により作成さ

Mindsガイドラインライブラリに掲載中のガイド

ライン解説は、学会が診療ガイドラインをベースに作成した学会版ガイドライン解説、Mindsが学会等のガイドライン作成団体と協働して作成したMinds版ガイドライン解説（現在新規作成休止中）があり、学会版の場合は、先行して該当の診療ガイドラインがMindsガイドラインライブラリに掲載されていることが前提条件となる。

がん領域の国民向けガイドラインの掲載状況は、全領域の中で30.7%（28件／91件）を占めているが、28件の内訳は、学会版ガイドライン解説6件、Minds版ガイドライン解説が22件となっている。

D. 考察

がん領域と全領域を比較するとがん領域の診療ガイドライン群の方が患者市民参画を導入している比率がやや高いものの、がん領域を含めた全領域を通じて、患者・市民が診療ガイドライン作成に参画しているガイドラインはまだ少数である。患者・市民の立場の方々が参画していたとしても、患者・市民の希望や価値観の調査方法やそれらがどのように診療ガイドラインに反映されたのか明示されている例は極めて少ない。今後、臨床現場や日常生活において、さらに役立つ診療ガイドラインとしてくためには、患者・市民等の希望・価値観を尊重し、医療者以外の立場の方々と協力して診療ガイドラインで扱う課題や推奨内容を検討していくことが求められるであろう。

また、国民向けのガイドライン解説については、がん領域の最新版診療ガイドラインが109件掲載されているのに対し、学会版ガイドライン解説は6件となっており、Mindsガイドラインライブラリへの掲載という前提条件を考慮してもガイドライン解説の作成・提供状況はさらなる整備が急務であることは明らかである。

学会等の診療ガイドライン作成団体からは、診療ガイドライン作成の負荷が重く、解説までは手が回らないといった声が多く聞かれる。そのため、今後は診療ガイドラインとガイドライン解説の作成を連携・連動させることで、効率的かつ迅速に診療ガイドラインと解説の作成が進められることが期待される。

Mindsでは今後、このような方策を推進するために、診療ガイドライン作成マニュアル等で具体的な方法論や対応策を提示できるよう検討を行っていく。

E. 結論

診療ガイドラインをベースとしたがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備に向けて、診療ガイ

ドラインと解説の作成を連携・連動させる効率的・効果的な作成方法・作成体制の整備が求められる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし